



tv asahi  
**なんでもクラシック** 2014



**2月8日(土)18:30～ 東京芸術劇場 コンサートホール**  
**人気マエストロ・コバケンの十八番〈後編〉**

～チャイコフスキー ヴァイオリン協奏曲&くるみ割り人形から～

人気指揮者小林研一郎と美しい音色で定評の“魂のヴァイオリニスト”リンの競演! 前編とのお得なセット券がおすすめです。

小林研一郎(指揮) / ジョセフ・リン(ヴァイオリン) / 東京フィルハーモニー交響楽団(演奏)

全席指定 = 3,150円 セット券 = 5,500円



小林研一郎

©Satoru Mitsuta



ジョセフ・リン

©Koichi Miura



東京フィルハーモニー交響楽団

©K.Miura

**曲目/解説**

**チャイコフスキー：ヴァイオリン協奏曲二長調 作品35**

第1楽章 アレグロ・モデラート—モデラート・アツサイ

第2楽章 カントネッタ アンダンテ

第3楽章 アレグロ・ヴィヴァッチシモ

19世紀ロシア音楽の巨星、ピョートル・イリイチ・チャイコフスキー(1840～1893)は、現在のウクライナの貴族の家系のもと、ウラル地方に鉱山技師の息子として生まれました。当初、父親の意向から法律を学び、いったん法務省に就職しましたが、音楽を諦め切れず、アントンとニコライのルビンシテイン兄弟に学んで音楽家の道に舵を切ります。その後、ロシアやヨーロッパ各地で演奏活動や作曲を行い、「ロシア五人組」等の国民楽派とは一線を画す洗練された作風を確立して、クラシック音楽界最大の作曲家の一人となりました。唯一のヴァイオリン協奏曲は、1878年のスイス滞在中の作品。楽譜を献呈しようとした名ヴァイオリニストのアウアーから演奏を拒否され、ヴァイオリニストを替えて初演したものの、それが大失敗に終わる等、数奇な運命をたどりました。20世紀も近くなって、ようやく認められ、今では、ベートーヴェン、メンデルスゾーンの作品と並び、世界3大ヴァイオリン協奏曲として広く親しまれています。チャイコフスキー特有のメランコリックな情緒たどる第2楽章を挟み、超絶技巧を駆使するヴァイオリン、そしてダイナミックな管弦楽が激しく渡り合う第1楽章、第3楽章と聴きどころが続き、ウクライナの民謡やロシアの舞曲等が豊富に取り入れられていることも大きな魅力です。なお、第1楽章で演奏される独奏ヴァイオリンのカデンツァは、ジョセフ・リン氏自らの作曲になります。

**チャイコフスキー：バレエ組曲「くるみ割り人形」～花のワルツ**

いまやクリスマスの定番となっているチャイコフスキーのバレエ音楽「くるみ割り人形」は、ドイツの作家、E・T・A・ホフマンの原作をフランスの文豪、アレクサンドル・デュマ・フィスが脚色した内容に基づき、1892年、サンクトペテルブルクのマリンスキー劇場で初演されています。「白鳥の湖」と同じく、最初は不評でしたが、もともと音楽面の評価が高かったこともあり、まもなく人気レパートリーとして定着しました。チャイコフスキーの円熟した技法が全編にわたって宝石のような輝きを見せ、ホフマンの幻想性豊かなストーリーテリングとあいまって、動く絵本のような絶妙な世界を織りなしていきます。初演に先立つ作曲者自身の編曲による組曲より、よく知られた「花のワルツ」です。

お問い合わせ:チケットスペース 03-3234-9999(月～土10:00～12:00/13:00～18:00)

※料金は全て税込・全席指定となります。

※やむを得ぬ事情により、出演者、曲目に変更が出る場合がございます。